

# 授業改善書

科目名	初等教科教育法（算数）
担当者	河崎 雅人

## 授業の概要

算数科の授業を行うために、指導者として必要な基礎的知識の理解を深めるとともに、算数科における指導方法及び技術、教材研究の手法、指導案の作成方法など具体的な算数科の教育法を習得させ、教育実践につながる能力や技術及び態度を育成することを目標に講義をする。特に、授業をどのようにして組み立て、構成するかを理解し、自分の考えをまとめる力、内容を理解する力、問題点を見付ける力を身につけることを目的としている。本講義では、アクティブラーニングの一つである協調学習として分類されるLTD話し合い学習法を導入し、小学校教科書の指定された単元について内容や評価規準・基準などをまとめた予習ノートをもとにグループによるミーティングを行い、話し合いを通して理解の深化を図るようにしている。

## 授業の問題点

本講義は予習に基づくミーティングを行っていることから、予習を義務付けている。そのため、「この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい」という自己の学習態度に対する評価は、「4」や「5」がほとんどで、昨年度よりも高かった。しかし、この項目以外の評価は、すべて昨年度より低かった。昨年度と授業の進め方やレベル同じであるにも関わらずこのような結果になってしまった。本講義は学生の主体的な学びを前提とした抗議であるため、本講義の授業内容に興味や関心がない学生にとっては負担であろう。興味・関心がないまま、また、教職に就くという意欲もないまま、単に免許取得のためにだけ履修している学生に対する履修指導が必要である。

## 学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」に対して「1」や「2」の評価をした学生が5名ほどいた。本授業ではミーティングによって学びを深めることにしているが、グループメンバー構成などによってミーティングの質が左右される。次年度は、ミーティングの質を高めるために積極的な声掛けをするとともに、まとめの時間を多くとるなど、グループによる差が出ないようにしていきたい。

## 授業改善の課題と方策

本学習法は予習の質とミーティングのメンバーの姿勢が大きく影響する。提出しなければならぬから予習をすると考える学生や欠席勝ちの学生、単に免許取得のためにだけ履修している学生、ミーティングに参加しない学生がいる場合には、本学習法は有効に機能しない。次年度は、本学習法について受講者に十分説明するとともに予習の目的や予習をすることの意味について十分な理解を図ることとする。さらに、ミーティング中に積極的に声掛けをするとともに、ミーティングの時間を減らし、話し合いのまとめとして課しているテーマや目標・評価等について解説する時間をとることによってミーティングの不十分さを補うようにする。

## その他